

中小企業診断士の視点

第79回
デジタルマニュアル・デジタルスキルマップ活用による多能工化推進



中小企業診断士 澤田 良敬
(一社)埼玉県中小企業診断協会

製造業の支援で現場を訪問すると、書棚に置かれた「作業手順書」や「力量管理表」を見かけます。前者は「作業マニュアル」、後者は「スキルマップ」とも呼ばれています。近年では、エクセルシートなどで作成され、データはサーバ保管と言ったケースも散見されますが、今一つ有益に活用されていないことがあります。時には、時間が経つにつれ自社のレガシーシステム（時代遅れの古い仕組み）のひとつになっていませんか。

◆有効な作業マニュアルとスキルマップは、「多能工」育成の必須ツールに…

作業マニュアルとスキルマップは、製造業にとっては「多能工」を育成する上で、重要な役割を果たしてくれるものです。必要な時に迅速に正確な情報を取り出せるマニュアルであるなら、新人をはじめ多能工を目指す社員の良きツールとなってくれます。スキルマップについても、頻繁に更新されていれば、社員の最新の力量を示す重要な評価システムとなります。にもかかわらず、今まで有効に活用されてなかったのであれば、それは2つのツールの特性である①迅速性、②更新の即時性、③一元管理性における運用面での課題があったためと推測します。

◆作業マニュアルとスキルマップの「デジタル化」の効用

作業マニュアルとスキルマップというものは、実は、デジタルととても相性が良いのです。「デジタル化」されることで、前述の課題が解決され、自社にとって有益な育成・評価ツールへと変わります。最近自社で作成しなくても市販品のクラウドプラットフォーム型のものもあります。

デジタルマニュアルについては、迅速に使える検索機能があるもの、写真や動画、3D図面等を用いたビジュアル系のものなどがあり、多能工を目指す若手作業員にとって便利な学習ツールとなります。もちろん、日常業務の作業手順書としても役立ちます。

デジタルスキルマップに関して言えば、定期的に専任評価者による更新ができるようになるので、社長はいつでも社員の能力をチェックできます。また、双方向にアクセスできるので、資格保有者が会社に対し自己の評価の更新を願い出ることも可能です。

◆DXの足掛かりとして、活用してはいかが…

今後、DXをどう自社に取り込んで行こうかと考えておられる経営者の皆様、まずは「デジタルマニュアルとデジタルスキルマップによる多能工化推進」に取り組んでみてはいかがでしょうか。また、これらは事務系社員の「兼務化」にも展開でき、その結果、人手不足対策や生産性の向上に役立つものと確信しております。

以上のような、デジタルを活用した「作業手順書」・「力量管理表」作りのサポートには、現場に精通した中小企業診断士がまさに適任です。是非、DXに一步足を踏み入れたい、または社員のスキルアップを図りたいとお考えの経営者様、埼玉県中小企業診断協会へお声がけ下さい。

【問い合わせ先】

(一社) 埼玉県中小企業診断協会
ホームページ：https://sai-smeca.com/
電話：048-762-3350
Eメール：rmcsai@nifty.com